

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:平成 4年 3月 10日

公表:平成 4年 3月 20日

事業所名 ジーニアスラボ道德校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		活動に合わせて机の移動等配置を変えている	今後も継続していく。
	2	職員の配置数は適切である	5		送迎時利用者を連れまわさないよう配置している	送迎ドライバーの雇用を行い受け入れの体制を整えています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5		バリアフリー対応	今後も継続していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			全スタッフが共通意識をもって行動することができるよう努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		送迎時などに保護者からお話を伺い、ニーズの把握に努めている。	アンケート調査や保護者からの聞き取りの内容を共有し、業務改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			今後も継続していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			外部講師からの助言を業務改善に活かしていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		研修の機会を設け、研修内容を共有している。	オンライン研修を増やす等、参加しやすい環境を整えていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			今後も継続していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			今後も継続していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		毎月チームで企画検討を行っている	今後も継続していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		毎月チームで企画検討を行っている	今後も継続していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		平日、休日など、時間や環境に合わせた支援をしている。	コロナ禍で外出の機会が減っているが、限られた資源の中でも経験を広げられるよう支援していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5			今後も継続していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		5	前日終了時に翌日の打ち合わせを行っています。	今後も継続していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		終礼を行い、振り返り、翌日の打ち合わせを行っている	今後も継続していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		利用表等に記録を行い、共有し改善につなげている	今後も継続していく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			今後も継続していく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5			今後も継続していく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	3	学校、その他関連、保護者等一同に集まれる機会が少ない	ケースフォーミュレーションを進めていき、輪を広く繋げていけるよう務める
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		SNS、電話、送迎時の引継ぎを通して、情報共有している。	今後も継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在医療的ケアが必要な利用者様がない為。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			今後も継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5			法人内の障害福祉サービス事業所だけでなく、他事業所への情報共有、連携に努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			積極的に研修に参加し、職員の専門性の向上に努めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5		児童館や公園での取り組みを企画し、地域とつながる機会を作っているが、コロナ禍で交流の機会は減っている。交流の機会を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5			今後も継続していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			今後も継続していく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5	相談支援を通して、具体的な対応方法を提案している。	保護者支援の充実を図るため、職員の学びの機会を増やしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			今後も継続していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			今後も継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		現在父母会、自助グループの設立準備を行っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			今後も継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			今後も継続していく。
	35	個人情報に十分注意している	5		契約時に、SNS等の写真掲載について確認している。	今後も継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		視覚化や、わかりやすい言葉を用いることを意識している。	今後も継続していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		地域と関わりを持つ機会を意識的に作っていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			今後も継続していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			今後も継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			虐待防止委員会を設立、併せて身体拘束防止委員会も内部で構成しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			保護者との面談時に確認し、計画に記載している。子どもへの説明についても、理解度に合わせ、伝え方を工夫していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			保護者からの伝達事項を職員に周知し、指示書に基づく対応をしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			今後も継続していく。